

醤油差し

池田 房子

料理が上手と云う訳ではないが、私は食器が大好きで、同じ料理でも器と盛り付けによつて随分味が違うように感じられ、旅先で焼き物を見つけると、これはどんな料理を盛りつければ美味しいだろうと、考えるのも楽しく、ついつい買い過ぎてしまう。

ある日、佐賀に商談に行くという夫に、有田焼の器を見たさに、別行動をして仕事の邪魔をしませんから」と言つてついて行つた。

佐賀空港で出迎えて下さつた友人の江頭さんが 窯焼きが そぎやんよかば、知り合いがいるから連れて行つてやる」と言つて下さり、翌日、有田焼の工房へ案内して頂いた。

黒い土蔵造りの建物は、江戸時代の雰囲気は今に残っていた。一階で絵付け作業を見せて頂いた。板敷の広い部屋で窓際に畳が
一列に敷かれていて、職人さん達 一人一人が和紙に墨で描かれた
図案を素焼きの器に黙々と写しておられた。非効率だなあ」と思

いながら見ていると、焼き物は精神的なものが大きく影響するので仕事場が変わると出来上がるものも違つてきます」と説明された。その時、遠い昔金沢の加賀友禅の工房へ足繁く訪ねた日が重なつて思い出された。



食器なんか百貨店でいくらでも買えるやろ」という夫の言葉をしり目に、商店街で妖艶な感じがする醤油差し見つけ買おうとすると、何と夫は二十個も注文した。

そんなに買ってどうするのよ」皆に上げたらええやろ」と喧嘩しながら買った醤油差し。

あなたがいなくなつた今も、皆さん大切に使つて下さつてますよ。二十個買ったあなたが正解でしたね」

近頃は店を覗きながら歩くだけ。それも楽しいけれど、欲しいと言うエネルギーが減少するのは有難くもあるが、寂しい。

毒舌先生

谷 たか子

その日、私は人間ドックの精密検査の結果を聞くために、担当医師に面会しました。

黒縁の眼鏡を掛けた年配の医師は、歯に衣を着せることなく、ズバズバと切り込んできました。

アンタ食べ過ぎやで。人間はなあ、二十歳で体が完成するんや。その頃より増えた体重は戻さなアカンで」と。

高脂血症や脂肪肝を指摘され、その上思いもかけなかつた心臓の病気も告げられた。大動脈弁が閉鎖不全を起こし、血液の一部が逆流しているというのです。医師は畳みかけるように続けました。

